

教育目標: **心豊かな三小の子に** ○やさしい子 ○進んでとりむ子 ○考える子 ○元気な子

めざす学校像: 『子供たちが明日も行きたくなる学校』

めざす児童像: 『互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識をもつ児童』 ・社会に対して主体的に関わり合い、社会に貢献することのできる個性と創造性豊かな児童

めざす教師像: 『指導力に優れた教師』 ・児童、保護者、地域から信頼される教師 ・組織的な学校運営に進んで参画できる教師

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標	努力指標	成果指標	成果指標	分析コメント	改善策
				(中間)	(最終)	(中間)	(最終)		
確かな学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムマネジメントの確立 授業改善の推進 ICT環境の有効活用 高学年教科担任制の導入 	<ul style="list-style-type: none"> 教科横断的な学習の充実を図る。 週ごとの指導計画の充実による教員の授業力の向上を目指す。 児童一人1台貸与するタブレット端末等を活用した指導を取り入れ、指導の充実を図る。 専門性の高い授業を実施し、知的好奇心を高めるとともに、中学校への円滑な接続を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 週ごとの指導計画には、ねらいと学習活動を明記するとともに、指導記録の作成による振り返りを積み上げ、指導と評価の一体化を推進する。 ICT機器を効果的に活用し、児童の学習意欲を向上させる。 授業コンテンツの開発を行い、個別最適な学び・協働的な学びを生かした授業を実施する。 	4	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 学年単位でつくる単元計画を学級ごとの実態に応じて週案に反映することができた。 週案を作成することで、指導内容を計画的に考えることができ、目標を意識した授業が行うことができた。 学年会で細かく計画し、足並みをそろえて学習指導にあたることができた。 個別指導について計画性をもって取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 前の時間に学習したことを振り返る時間をつくらせたり、黒板に「めあて」を明示したりして、児童が授業の「めあて」を把握できるようにする。 週案や学年会を活用し、「めあて」を明確にした授業を計画・実施できるようにする。
				2	3	4	4	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書やeoms、スクリーン等を効果的に活用できた。 理科に関してはICTで実験手順動画を提示することは効果的だった。 ICTと相性の良い教科(生活・図工・体育)と良い教科(国語・学活)などで使い分けながら活用することができた。 従来の補足、児童の考えの共有、個別別学習などに活用することで意欲が高まったと感じた。 児童のタイピング力をもう少し高められるようにしたい。 教科担任制の適切な実施のためには学級・教科両面から指導計画の進行管理をする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童のICT機器の活用スキルに大きな差が生じないように、情報教育の年間指導計画を念頭に指導していく。 ICT部会を中心として、学校全体で組織的にICT教育の推進を図る。 ネット環境の不具合が生じる可能性も考慮して授業を考えるなど、別の手段も準備していく。
豊かな人間性の確立	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育の一層の充実といじめの未然防止の徹底 道徳教育の推進 特別活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> すべての人を大切にすまじき言葉に關連する授業を実施する。 場に応じたあいさつや適切な言葉遣いの指導を徹底する。 児童の個性を尊重し、自己肯定感を高める支援を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の人権感覚の向上を図るとともに、児童の人権意識を高め、いじめゼロを目指す。 発達段階に応じて、特別支援教室との連携を図った授業を行うとともに、学校だより等で学期に1回以上特別支援教室の活動を周知する。 	4	4	3	4	<ul style="list-style-type: none"> 児童会の全委員会でいじめ防止に向けて主体的に活動を考えたり、取り組んだりした。 児童の心に寄り添いながら、何かあった際には細かく対応し、心を育てる道徳をより意識しながら行うことができた。 ●初任者等若手教員に向け、いじめ関係の報告・対応についてのOJTが必要である。学校全体でいじめの未然防止を徹底するために、学校としての細かな対応のマニュアルがあることで改善を図ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員が気付くことがベストではあるが、保護者からの指摘で気付くこともある。早期対応を心がける。 ●若手研のOJTで、いじめや学級についての悩み事を年度当初で話す機会を設ける。 ●年3回研修を行っている。また、学校いじめ防止基本方針のマニュアルに則って今後も対応をしていく。事例を取り上げ、より具体的に実践的な研修を行う。
				2	3	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 日々の授業で児童が互いの考えを尊重し合う雰囲気づくりができています。 ●学級活動で話し合いをすることで議題を自分事として捉え、活発に意見を伝えたり、話したり聞いたりするときのマナーを考え、行動できる児童の姿が見られた。 ●上級生として下級生のことを考え、たわり班活動の内容を企画・実行していた。 ●話し合い活動がうまく進んでいないときの児童への声掛けなどは、教師として身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●次年度へ向けて5年生の1月にオリエンテーションを実施する。 ●3学期は5年生がリーダーを経験できるように計画を立て次年度に備える。 ●一回ごとの計画書や年間のスケジュール(場所の割振り)を年度当初に示す。
健やかな体の育成	<ul style="list-style-type: none"> すすんで運動に取り組む意欲と体力の向上 食育や保健指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態や発達段階に応じた指導の充実を図る。 健康について正しい理解と留意する意識を高める指導を実施する。 食への関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●全学年に体育専科教員が関わり、指導内容の系統性を考慮した授業改善に取り組む。 ●体育的な活動を毎時間の授業に取り入れ、運動への意欲と体力の向上を図る。 	4	3	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ●5・6年を2年間指導することができるため、計画的・系統的な学習指導ができた。また、中学校への円滑な接続も視野に入れた系統的な指導を行った。 ●増築棟工事などに伴って年間指導計画の見直しとすることで、全学年で系統的な指導を行うことができた。 ●教材・場などの整備が十分にできたため、効率的な指導を行うことができた。 ●運動教室を開き、運動が苦手な児童が前向きに練習に取り組んでいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●体育的活動の流れや場の使い方など、個別最適な学習につながる工夫をする。 ●問題解決的な学習等、学習展開、単元計画の工夫をすることで、児童の意欲を高め、体力の向上につなげていく。 ●単元を行う時期が同じだと使う道具も共有できるので、年間指導計画を6年間まとめたものをつくる必要がある。
				3	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ●保健便りを配布する際に、学級で内容を確認することで健康への理解を図ることができた。計測前の事前指導は、子供たちが自分のことを振り返るよい機会となっている。 ●1年生のハンカチ折り紙等の持参は家庭の状況により、個人差が大きい。家の協力と意識が欠かせない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●保健指導したことが実践できるように、定期的かつ繰り返し指導していく。
特色ある教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 地域、保護者との連携及び地域の特色を生かした教育活動 「見える学校」「話のできる学校」による開かれた学校づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校区での連携を推進する。 地域人材の発掘、及び地域の教育資源を積極的に活用する。 保護者や地域ボランティアへ積極的に教育活動への参加を呼び掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ●国分寺学や教科担任制等共通テーマを設定し、実践を交流する。 ●地域の自然や文化・伝統に触れる環境づくりをする。 ●保護者や地域ボランティアへ積極的に教育活動への参加を呼び掛ける。 	3	3	4	3	<ul style="list-style-type: none"> ●生活科見学や遠足で地域の公園に足を運び、豊かな自然に触れることができた。 ●国分寺市の教育資源を活用した学習に取り組むことができた。 ●主に社会科でくらみやみ祭りに関わる国分寺市内の団体について学び機会を設定した。 ●日立研究所やゲストティーチャーによる国分寺市内の自然や歴史について授業を行った。 ●これらから6年間系統立てて取り組んでいく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●令和6年度は「国分寺学」の完全実施となる。様々な教科から国分寺学として位置づけられるものを整理して、今年度内に国分寺学の年間指導計画を作成していく。
				2	3	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ●各学年・専科からタイムリーかつ月に2～3回程度ブログを発信する。学級だよりまたは学級ブログは毎月1回以上発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ブログを校長先生が頻繁に更新している。担任は学級通信で児童の様子を進んで伝えている。 ●児童の学校生活の様子を満遍なく情報発信できるようにする。